

令和2年度を、今振り返る



変化

～その先へ～

中部教育事務所 副所長 山下 辰弥

日ごとに春を感じるようになり、令和2年度の「終わり」と新年度の「始まり」をどのように迎えるかを考える大事な時期となりました。皆様、この1年をどのように振り返られているのでしょうか。

私たちの日常を一変させた新型コロナウイルス。児童生徒を始め、すべての人が制限の多い日々の生活を送ってきました。改めて、人は集い、語り、笑い合うことで良いコミュニケーションを築いてきたことを実感させられています。

教育の現場でも、感染症対策に追われながらの毎日に加え、学校が大切にしてきた儀式的行事、児童生徒が楽しみにしていた学校行事などは変更し、対応に苦慮されたことと思います。「例年通り」が通用しない1年間は、ある意味忘れられない1年となりました。その中ではっきり見えてきたものは、教育活動の目的は何かということではないでしょうか。目的達成のために本当に大切なことは何なのかを全員で考え、限られた状況の中で創意工夫し生み出されたものは、afterコロナの世界でも必ず生かされる力になると信じています。宮崎の良さを再発見できた県内修学旅行や、背中を押されるようにして進められたICT教育の環境整備はその代表的なものでしょう。また、この状況下でのさまざまな教育活動に、子どもたちが大人以上に臨機応変に対応し、いかに盛り上げていか、より充実したものになるか考え、活動していく頼もしい姿に、宮崎の教育の明るい未来を感じ取ることもできました。

さて、毎年3月の声を聞くと東日本大震災のニュースがクローズアップされます。節目といわれる10年が経ち、人の命の重み、東北復興、防災について改めて考えさせられます。私が必ず思い出すのは三陸鉄道が震災1年後に発行した切符です。切符の名前は「釜石から復興未来ゆき」、有効期限は「諦めない限り有効」とあります。胸をうつメッセージです。東北の方々が諦めずに前を向いているように、今現在、私たちに平等に降りかかってきたこの困難に対して、それぞれが知恵を出し合い、迷いながらも諦めずに一つの壁を乗り越えていきたいものです。

最後に、本年度の中部教育事務所主催の事業・研修等にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

年度末の児童生徒への指導

年度末を迎え、各小中学校では、1年間のまとめと併せて、卒業式、修了式から新年度を迎える期間の過ごし方についての指導をされていることと思います。

生徒指導・学校安全に係る指導の概要については、令和3年2月24日付け0760-1323で、県教育委員会教育長から、以下の6点について示されています。

- 1 学校内の事故防止について
- 2 児童生徒の指導について
- 3 新型コロナウイルス感染症に対する注意
- 4 SNS利用に関する注意
- 5 交通事故の防止について
- 6 電話相談窓口の紹介



各学校の児童生徒の実態に応じて、必要な内容について、**重点的**に指導をしてください。

なお、**長期休業の前に、6の電話相談窓口の電話番号を児童生徒に周知していたことで、子どもの悩みの解決が図られ、大事に至らなかったという事例**もあります。生活のしおり等に明記していただくような工夫も有効ではないでしょうか。

24時間子供SOSダイヤル フリーダイヤル
0120-0-78310 (なやみおう)

令和3年度も、学校に子どもたちの元気な笑顔がふれることを楽しみにしています。

最上級生にむけ「学びの確認」の活用を！

12月上旬に小学校5年と中学校2年を対象に実施された「みやざき小中学校学習状況調査」の結果が返却されました。それぞれの学年で、全国から約10万人、宮崎県からは約1万人が調査に参加しています。今回の調査に参加した学校には、**簡単な手続きをするだけで、東京書籍のホームページからやり直しや振り返りの問題をダウンロードできるという特典**が付いています。一部を閲覧してみたところ、**春季休業中の自宅学習の課題としても十分使えるものになっていますので、補充学習にぜひ役立ててください。**

詳しくは、先日発行された「**義務教育課News [学びの確認編 第1号]**」に紹介されていますので、ご確認ください。

